

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	553		科目名	コミュニケーション学事例研究4		サブネーム	市民とコミュニケーション	
連携機関名	くらしとバイオプラザ21	レベル	基礎	講義枠	水曜日	講義時間	18:30~20:00	
科目概要	食品安全委員会がリスク分析手法を採用し、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションということばが聞かれる機会が増えている。評価や管理には専門家が関わり、調査報告や研究論文も出されているが、市民を対象とするコミュニケーション手法については様々な分野で担当者が試行錯誤を重ねている状態である。コミュニケーションの条件や環境も多様に異なる状況で、連携や情報交換も進んでいない。様々な分野における実際の活動を具体例として示しながら紹介し、「市民とのコミュニケーションのあり方」という切り口から、受講者とともに整理し、一緒に考えていく。							
サブタイトル	No.	講義名	講義概要		講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	バイオの情報提供について	市民とのコミュニケーションという切り口で本講座で紹介される様々な活動の概要と本講座全体の進め方について説明する。NPO法人くらしとバイオプラザ21で企画・実施している体験実験教室や談話会など双方向性のある活動を紹介する。		10月3日	共通講義棟 1号館 205	佐々義子	くらしとバイオプラザ21
食における市民とのコミュニケーション	2	学校給食の現状と課題	定時制高校、小学校の学校給食における活動を通じて、食を考え、実践しながら見えてくる「食」のあるべき姿について紹介する。		10月10日		佐藤あけみ	さいたま市立中尾小学校
	3	インターネット上のコミュニケーション	インターネットを用いた「遺伝子組換え技術」を中心とするバイオテクノロジーの情報提供と、閲覧者とのコミュニケーションの現状について紹介する。また、インターネット上でバイオテクノロジーのコミュニケーションをより効果的に行うにはいかにすべきかを学ぶ。		10月17日	人間文化403	森竹裕子	科学ライター
	4	食と情報発信	ポストハーベスト、農薬、遺伝子組換え食品などを中心とした情報発信や催しの企画・実施を通じ見えてくる私たちの食生活について、よりわかりやすく情報発信をしようとしたらいいのかを考える。		10月24日		金子 友紀	食品科学広報センター
ジャーナリズムにおける市民とのコミュニケーション	5	食品報道におけるメディアの功罪	一般市民は、食のリスク情報をテレビや新聞から最も多く得る一方、そうした情報に右往左往し、食への信頼が持たなくなっている。GMO、BSE、残留農薬、食品添加物など食にまつわる不安が、メディアによってどう引き起こされるのかについて、メディア側から検証することで、市民のリスクコミュニケーションのあり方を模索する。		10月31日		中野栄子	日経BP社
ビジネスにおける市民とのコミュニケーション	6	女性のための企画作り	主婦を中心とした女性達へのバイオテクノロジー、遺伝子組み換え食品などの情報提供は、生活者へのレベルに合わせ表現することが重要であることを、経験を踏まえて考える。		11月7日	共通講義棟 1号館 205	石井みな子	パーティーフー
	7	遺伝子組換え農作物と市民	日本の消費者への遺伝子組換え農作物に関する情報提供を行い、理解促進に努めてきた経験をふまえ、リスクとコミュニケーションのあり方について考える。		11月14日		坂本智美	シンジェンタシード(株)
	8	食の文化を考える	食とくらしの小さな博物館の活動を通じて、食の文化を考える。		11月21日		河野一世	味の素(株)
	9	バイオテク教材販売を通して見た日本のバイオテク教育	バイオテク教材キットの販売を通して見てきた日本の学校及び社会でのバイオテクノロジーに関する教育の実際を、ライフサイエンス研究支援をしてきた立場から紹介し、今後の発展について考える。		11月28日	人間文化403	笹川由紀	バイオラッド
教育/研究における市民とのコミュニケーション	10	生活者視点に立った商品づくり	時代とともに、生活者の生活スタイルは変化している。生活雑貨の製造を通じて、生活者の意識や行動を把握してきた立場から、試行錯誤しつつ生活者とのコミュニケーションをし、商品(モノ)づくりをしていく過程の一部を紹介する。		12月5日		小島みゆき	花王(株)生活者研究センター
	11	医療における情報提供コミュニケーション～遺伝カウンセラーの立場から～	遺伝カウンセリングでは、遺伝や遺伝子、遺伝性疾患や先天異常に関する心配や疑問を抱いている人々に対して、様々な情報を伝えるとともに、人々が疾患や遺伝の情報をどのように受け止めるかを考慮しながら、その後の方向性を個人が自律的に決断していくプロセスを支援する。そうした実践の様子を紹介するとともに、遺伝子診断のどについても触れてみたい。		12月12日		田村智英子	お茶の水女子大学大学院
	12	東南アジアの農村と市民を結ぶ	タイ、フィリピン、インドネシアなどのファームシステムや病害防除の研究から、農民と市民の、食の安全を介した関わりを考える。		12月19日	共通講義棟 1号館 205	夏秋啓子	東京農業大学
13	体験・追求型教育プログラム	UCパークレイローレンスホールで研究・作成された科学と数学の教材であるGMES(Great Explorations in Math and Science)の日本での普及活動を踏まえ、感動を伝え個人の思考・判断力を伸ばし社会への理解深化を支援することの意義を考える。		1月9日			古川和	ティーチングキッズ
コミュニケーションの基本を考える	14	植物を通じたコミュニケーション	植物を通じて、人間が成長する経験をふまえ、あしかがフラワーパーク園長として、樹木医として、多くの人との交流を通じて、スキルに偏らないコミュニケーションについて考えてみる。		1月16日		塚本こなみ	あしかがフラワーパーク
まとめ	15	全講義をふりかえって	全講義を通じて、より公平な市民を交えたコミュニケーションのあり方について、全員の意見を出し合い、整理する。		1月23日		佐々義子	くらしとバイオプラザ21

注 07/4/20 講義No. 9の講義概要及び講師の姓の変更。07/5/11講義No.3森竹講師の役職変更。 07/7/20①講義No.5と9の入れ替えと一部につき講師と講義名の変更。②講義No.11と12の入れ替え。③佐藤あけみ講師の所属変更。2007/9/14 教室の決定。 2007/9/21講義No.4の講師交替。